Kochi University

看護学生の老年看護学実習前における認知症高齢者イメージの特性

― 一般高齢者と認知症高齢者に対するイメージの比較 ―

木村誠子・片岡万里

（高知大学医学部看護学科地域看護学講座）

The Characteristics of Image of Nursing Students toward Demented Elderly People before Gerontological Nursing Practice:

Comparison of Image between the General Elderly People and Demented Elderly People

Masako KIMURA, Mari KATAOKA

Chair of Community Health Nursing, Department Nursing, Kochi Medical School

Abstract: The purpose of this study is to identify characteristics of images held by nursing students toward the demented elderly, comparing images toward the demented elderly and general elderly. The scores from a scale derived from responses to a questionnaire survey was used. The questionnaire had questions about images for both general elderly people and demented elderly people: 50 adjective items of Semantic Difference and the age. The participants were 61 sophomore and senior nursing students (74.4%) before the beginning of the gerontological nursing clinical practice. The responses were scored and each image item was compared between the general elderly and demented elderly by the t-test. The results showed that subjects had significantly negative images toward the demented elderly compared to those toward the general elderly. The mean scores of twenty-six items were significantly lower toward the demented elderly compared to those toward the general elderly 1 while scores for four items were higher than those for the general elderly. Factor analysis identified characteristics of images toward the demented elderly and revealed seven factors: "activeness," "dignity," "suavity," "happiness," "effectiveness," "sensitive," and "mentality". Further study of nursing students was considered necessary to identify results using the same scale before and after the gerontological nursing practice in order to develop enriched gerontorogical nursing education.

Keywords: questionnaire survey, nursing education, clinical practice, Semantic Difference Scale.

はじめに

わが国では高齢者人口の増加によって，認知症高齢者の数も増加することが予測されている．老年看護学の領域においては，看護学生の認知症高齢者に対する理解を深め，そのニーズに応じたケアを修得させるために教育の方法を模索している．教育内容を検討するためには，学生の認知症高齢者に対する理解の状態を把握することが求められ，研究者らは，学生の高齢者に対する理解状態を知る指標の一つとして，50形容詞対を用いたイメージ調査を実施してきた[1)2)]．その結果，看護

NII-Electronic Library Service

Kochi University

学生の高齢者に対するイメージを報告した先行研究の結果[3)-5)]と同様に，学生の高齢者イメージは，学年進行につれて肯定的に変化することが指摘された．

認知症高齢者に関する看護学生のイメージの報告は数少なく，学習初期段階で，身体面では「元気」「活発」といった肯定的イメージと，「虚弱」「寝たきり」などの否定的イメージを同時に抱き，精神及び社会面では否定的イメージを持つこと[6)]，1年～2年生は否定的イメージを抱き，3年生になると肯定的イメージに転じるといった，学習進度によってイメージが変化する，などの報告[7)]にとどまっている．また，老年看護学の対象者である一般高齢者に対するイメージと認知症高齢者に対する看護学生イメージの違いを比較することで，更に老年看護学の教育内容を検討する資料を得ることが出来る．ところが，看護学生を対象者にして，両者のイメージを比較した研究は報告されていない．

そこで，本研究では，これらの認知症高齢者イメージに関する先行研究の結果を検証するとともに，認知症高齢者の看護教育を含めた老年看護学教育の資料を得ることを目的として，看護学生の一般高齢者と認知症高齢者に抱くイメージを比較し，認知症高齢者のイメージの特性を明らかにすることを目的とした．

Ⅰ．方法

1．対象者および調査方法

対象者は，A大学看護学科の3・4年生の82人であった．調査方法は，4週間の老年看護学実習の初日に実施するオリエンテーション時に，研究者が，倫理的配慮に基づき本調査の目的，調査への参加は自由であること等を説明し，無記名の自記式質問紙を全員に配布した．質問紙の回収は，休み時間を挟んだ全てのオリエンテーションが終了した後に，学生が，机上に他の提出物と一緒に提出した．調査期間は，平成16年11月から平成18年1月の老年看護学実習の履修期間であった．

2．質問紙

質問紙は，保坂・袖井（1988）の作成した老人イメージ調査票を用いた．これは，Semantic Difference 法による50対の形容詞項目（以下，形容詞対）で構成されている．設問は，一般高齢者に対するイメージを，「あなたは一般高齢者に対して，どのようなイメージを持っていますか」と尋ね，認知症高齢者については，「あなたは認知症高齢者に対して，どのようなイメージを持っていますか」と尋ねた．尚，研究者は，一般高齢者として，日常生活の自立している高齢者像，認知症高齢者として，明らかな認知症の症状を持つ高齢者像を意図したが，学生には研究者の意図を一切伝えず，各々の自由なイメージに委ねた．形容詞対は，1～7段階での評価を行い得点化した．得点が高くなるほど，肯定的であることを示している．年齢は，60～69歳，70～74歳，75～80歳及び81歳以上の4つの選択肢を提示した．

3．倫理的配慮

倫理的配慮は，質問紙の配布時に，調査に関する説明を行い，本調査への協力を求めた．説明時に，調査の参加は自由であること，調査内容が実習評価に影響することはないこと，データは統計的に処理するために本人を特定することはないこと等を説明した．

4．解析方法

得点化した形容詞対は，一般高齢者と認知症高齢者の50項目の平均値を，次に各項目の平均値をそれぞれ求めて，T検定で比較した．イメージした一般高齢者および認知症高齢者の年齢については，75歳未満と75歳以上に分類し，カイ二乗検定で2群間の比率の検討を行った．更に，因子構造を明らかにし，認知症高齢者のイメージをより包括的に把握するため，認知症高齢者の形容詞対得点の因子分析（主因子法，バリマックス回転）を行った．解析には，社会科学用統計パッケージ

NII-Electronic Library Service

Kochi University

SPSS 11.5 J for Windows を使用した．

Ⅱ．結果

回答は，79人（96.3%）から得られた．解析対象は，一般高齢者及び認知症高齢者の老人イメージ調査票で，形容詞対の全ての項目に回答した61人（74.4%）とした．

形容詞対の平均値の一般高齢者と認知症高齢者の比較の結果は，形容詞対の一般高齢者の平均は4.0（SD＝±1.0）点で，認知症高齢者は3.6（SD＝±1.0）点で，認知症高齢者は有意に低かった．次に，表１に示したように，形容詞対の50項目それぞれを比較した結果で，認知症高齢者の形容詞対の方が，一般高齢者に比べて低かったのは，「憎らしい/愛らしい」「粗い/細かい」「騒がしい/静かな」「不安定/安定」「かなしい/うれしい」「だらしない/きちんとした」および「空っぽな/満たされた」など26項目であった．一方，認知症高齢者の方が一般高齢者に比較して高かったのは，「地味な/派手な」「暇そう/忙しそう」「静的/動的」および「目立たない/目立つ」の４項目であった．

学生がイメージした認知症高齢者の年齢は，60～69歳は２人(3.6%)，70～74歳は16人(29.1%)，76～80歳は25人（45.5%），81歳以上は12人（21.8%）であった．一方，一般高齢者の年齢は，60～69歳は５人(8.9%)，71～75歳は19人(33.9%)，76～80歳は24人(42.9%)，81歳以上は８人(14.3%)であった．75歳未満の年齢群と75歳以上の年齢群について，認知症高齢者の年齢を一般高齢者の年齢に比べて高くイメージしている傾向がみられた．そこで，認知症高齢者と高齢者のイメージされた年齢の比率について検討したが，有意差はみられなかった．

認知症高齢者における形容詞対の因子分析の結果，因子のスクリープロットをもとに７因子を抽出し，信頼性を検討するために各因子のクロンバックα係数を算出した．その結果，第６因子および第７因子を除き，クロンバックα係数は0.7～0.8以上であった．７つの因子に含まれた形容詞対の項目を解釈して次のように命名した．各因子に含まれる項目毎の負荷量を表２に示した．累計寄与率は，54.3%であった．第１因子は『活動性』と命名し，項目には「受動的/能動的」，「地味な/派手な」，「内向的/外向的」など身体および精神的活動に関連した16項目が含まれた．第２因子は『威厳性』と命名し，「低俗な/高尚な」，「愚かな/賢い」，「魅力のない/魅力のある」など，人間的魅力や人徳に関する９項目が含まれた．第３因子は『親近性』と命名し，「つめたい/あたたかい」，「憎らしい/愛らしい」，「疎遠な/親密な」など，人としての温かみに関連した６項目が含まれた．第４因子は『幸福さ』と命名し，「悲観的/楽観的」，「閉鎖的/開放的」，「不幸な/幸福な」など，充足感に関連した７項目が含まれた．第５因子は，『有能さ』と命名した．「感情的/理性的」，「貧弱な/立派な」，「劣った/優れた」など，能力に関連した７項目が含まれた．第６因子は『繊細さ』と命名し，細やかさに関連した「粗い/細かい」および「だらしない/きちんとした」の２項目であった．第７因子は『精神性』と命名し，「貪欲な/無欲な」，「主観的/客観的」「弱々しい/たくましい」および「単純な/複雑な」など，物事に対する心の持ち方に関連した４項目が含まれた．図１は，認知症高齢者のイメージにおける各因子の平均値をプロフィールとして表わした．看護学生は，認知症高齢者に対して，『親近性』以外の因子では，否定的な傾向を持ち，中でも『有能さ』は最も否定的であった．一方，平均値の高かったのは『親近性』で，肯定的イメージには至らず，中立的なイメージに留まっていた．

Ⅲ．考察

看護学生は，全般的に認知症高齢者に対して一般高齢者よりも否定的なイメージを抱いていることが明らかとなった．看護学生の認知症高齢者に対するイメージの先行研究で，吉本らは，１～２年生では，マスメディアの影響や近親の認知症高齢者との関わりにより否定的なイメージを抱いて

NII-Electronic Library Service

Kochi University

表1．一般高齢者と認知症高齢者における形容詞対の平均値の比較

項目	認知症高齢者 Mean ± SD 一般高齢者 Mean ± SD	t 値	有意差
受動的―能動的	3.7±1.1 3.4±1.0	1.460	
地味な―派手な	3.8±1.0 3.4±1.0	2.125	*
内向的―外向的	3.5±1.2 3.6±0.9	-0.615	
弱い―強い	3.7±1.2 3.4±1.0	1.608	
小さい―大きい	3.6±0.8 3.4±0.9	1.792	
保守的―進歩的	3.2±0.9 3.1±1.0	0.571	
騒がしい―静かな	3.3±1.0 4.4±1.0	-6.201	***
暗い―明るい	3.9±1.0 4.1±0.8	-1.293	
鈍い―鋭い	3.3±1.0 3.4±0.9	-0.472	
静的―動的	4.4±1.0 3.5±0.9	5.127	***
暇そう―忙しそう	3.6±1.0 3.1±0.9	3.274	***
非生産的―生産的	3.1±0.8 3.6±0.9	-3.265	***
目立たない―目立つ	4.3±1.0 3.6±1.0	4.052	***
遅い―速い	3.3±0.9 3.1±0.9	1.313	
依存的―自立的	3.1±1.1 3.9±1.1	-3.924	***
消極的―積極的	4.3±1.2 4.4±0.8	-0.438	
低俗な―高尚な	3.9±0.7 4.5±0.8	-4.881	***
愚かな―賢い	3.8±0.7 4.9±0.9	-8.105	***
魅力のない―魅力のある	3.7±0.7 4.3±0.8	-4.172	***
きたない―きれい	3.4±0.8 4.2±0.7	-5.286	***
いばった―へりくだった	3.8±0.6 4.0±0.8	-1.679	
無能な―有能な	3.7±0.6 4.5±0.8	-5.937	***
反発―同調	3.1±0.9 4.0±0.8	-5.610	***
灰色―バラ色	3.3±0.9 3.7±0.7	-2.432	*
空っぽな―満たされた	3.8±0.8 4.3±1.0	-3.533	**
つめたい―あたたかな	4.3±0.8 5.1±0.9	-5.068	***
憎らしい―愛らしい	4.2±0.9 5.0±0.9	-4.931	***
疎遠な―親密な	3.9±0.9 4.3±1.2	-2.592	*
厳しい―優しい	4.3±0.8 4.8±1.2	-2.726	**
固い―やわらかい	3.8±1.1 3.9±1.2	-0.906	
貧しい―豊かな	3.9±0.5 4.2±0.8	-3.153	**
悲観的―楽観的	3.8±1.0 4.0±1.0	-1.209	
閉鎖的―開放的	3.7±1.0 3.8±0.9	-0.746	
不幸な―幸福な	3.9±0.7 4.4±0.8	-3.799	***
不満―満足	3.8±0.7 4.1±0.7	-2.999	**
狭い―広い	3.6±0.8 4.1±1.0	-3.026	**
不自由な―自由な	3.9±1.4 4.3±1.3	-1.666	
かなしい―うれしい	3.7±0.9 4.0±0.7	-2.217	*
感情的―理性的	2.6±0.7 4.0±0.9	-8.713	***
立派な―貧弱な	3.5±0.8 4.4±1.0	-5.068	***
劣った―優れた	3.6±0.7 4.5±0.9	-6.014	***
不安定―安定	2.6±1.1 4.2±1.1	-8.423	***
強情な―素直な	3.2±1.0 3.5±1.0	-1.754	
孤立―連帯	3.2±0.7 3.7±0.9	-3.041	**
粗い―細かい	3.5±1.2 4.1±0.9	-3.582	***
だらしない―きちんとした	3.3±0.9 4.6±1.0	-7.585	***
貪欲な―無欲な	4.0±0.9 4.3±0.9	-1.761	
主観的―客観的	3.4±1.2 3.8±1.1	-1.771	
弱々しい―たくましい	3.3±0.9 3.4±0.9	-5.610	***
単純な―複雑な	4.2±1.2 4.6±0.8	-2.143	*

*p ＜0.05，**p ＜0.01，***p ＜0.001

NII-Electronic Library Service

Kochi University

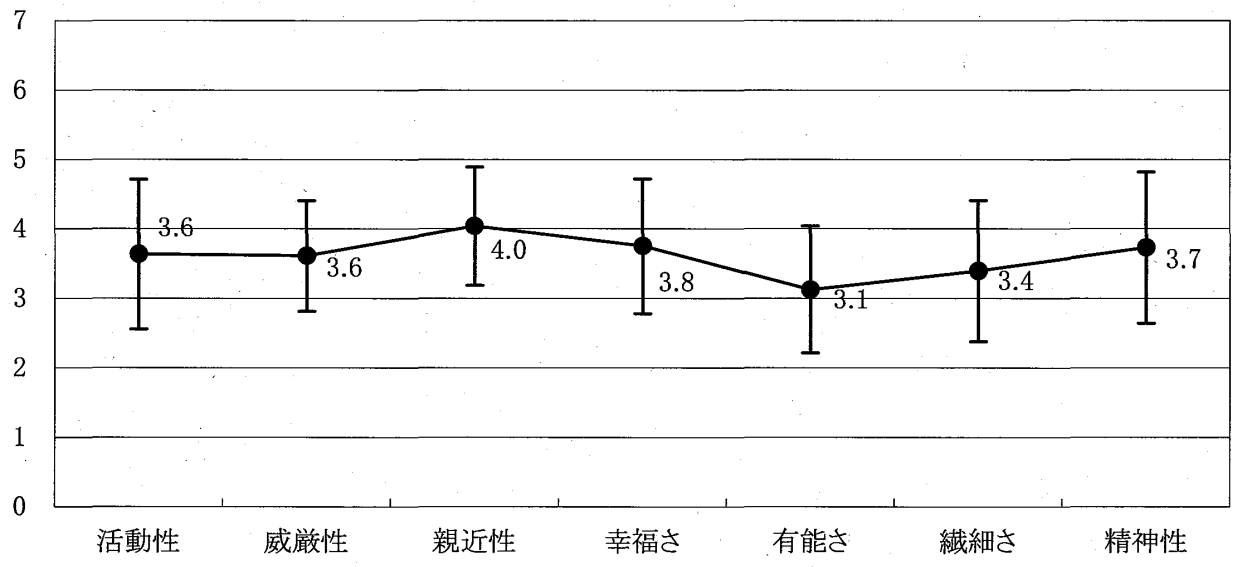
表２．認知症高齢者における形容詞対の因子分析の結果

項目	因子１	因子２	因子３	因子４	因子５	因子６	因子７
活動性（α＝.8028）							
受動的―能動的	.787	.016	.088	.126	.052	-.098	-.045
地味な―派手な	.751	.133	.297	.087	-.038	.069	.070
内向的―外向的	.733	.073	.352	.122	.225	.030	.068
弱い―強い	.707	.114	-.078	.205	-.004	-.074	-.158
小さい―大きい	.648	.185	-.141	.119	.039	-.111	-.101
保守的―進歩的	.641	-.099	.143	.165	.283	.050	-.106
騒がしい―静かな	-.632	.404	.014	.024	.176	.107	.098
暗い―明るい	.614	.385	.311	.320	-.164	.084	.158
鈍い―鋭い	.591	.273	-.213	-.094	.071	.111	.129
静的―動的	.585	-.100	.028	.242	-.193	.056	-.133
暇そう―忙しそう	.552	.153	.206	-.220	.246	-.007	-.258
非生産的―生産的	.548	.359	-.201	.045	.122	.352	-.073
目立たない―目立つ	.510	-.015	.062	.326	-.388	.275	.049
遅い―速い	.504	.213	-.123	.074	.402	-.195	-.072
依存的―自立的	.475	.198	.111	.336	.070	.290	-.284
消極的―積極的	-.348	.231	-.044	.038	-.082	-.171	.278
威厳性（α＝.8665）							
低俗な―高尚な	.038	.725	.038	-.066	.074	.146	.075
愚かな―賢い	-.098	.701	.082	-.020	.166	-.072	-.086
魅力のない―魅力のある	.195	.636	.221	.007	.144	.112	-.099
きたない―きれい	.196	.607	.046	.138	.128	.040	.071
いばった―へりくだった	-.169	.568	-.076	-.070	.380	-.151	.094
無能な―有能な	.324	.542	.210	-.067	.415	.042	-.212
反発―同調	.057	.516	-.023	.220	.303	.174	.275
灰色―バラ色	.455	.499	.406	.321	.025	-.060	-.029
空っぽな―満たされた	.334	.427	.153	.405	-.116	.066	-.078
親近性（α＝.7754）							
つめたい―あたたかな	.058	.008	.804	.189	-.140	.136	-.096
憎らしい―愛らしい	.062	.245	.715	.085	-.108	.283	.074
疎遠な―親密な	.200	.202	.557	.193	.025	.384	-.113
厳しい―優しい	-.133	-.104	.545	.062	-.064	.001	.009
固い―やわらかい	.335	.068	.539	.102	.305	-.084	.222
貧しい―豊かな	.218	230	.441	.022	.240	-.045	-.175
幸福さ（α＝.7574）							
悲観的―楽観的	-.042	-.475	.154	.660	.186	-.065	-.151
閉鎖的―開放的	.425	-.011	.146	.599	-.016	.232	-.201
不幸な―幸福な	-.026	.336	.451	.567	.159	-.244	-.062
不満―満足	.171	.091	.371	.557	.364	-.115	.009
狭い―広い	.221	.176	.196	.482	.215	.101	.130
不自由な―自由な	.330	-.037	.092	.421	-.175	-.078	.029
かなしい―うれしい	.182	.408	.029	.409	.081	-.260	.059
有能さ（α＝.7741）							
感情的―理性的	-.119	.072	-.132	-.032	.658	.231	.194
貧弱な―立派な	.214	.333	.014	.177	.576	.093	-.163
劣った―優れた	.148	.500	-.074	.134	.513	.165	-.154
不安定―安定	-.048	.285	.057	.148	.413	-.049	.207
強情な―素直な	.021	.230	.173	-.097	.391	.000	.329
孤立―連帯	.090	.230	-.106	.246	.374	-.052	-.080
繊細さ（α＝.5534）							
粗い―細かい	-.115	.061	.110	-.013	-.015	.816	108
だらしない―きちんとした	.070	.050	.219	-.096	.301	.468	-.013
精神性（α＝.1633）							
貪欲な―無欲な	-.306	.157	.077	-.051	.181	.130	.595
主観的―客観的	-.040	.000	-.372	-.084	.046	.056	.543
弱々しい―たくましい	.250	.152	-.253	.348	.042	.149	-.489
単純な―複雑な	-.062	.334	.067	-.178	.079	-.044	-.384
固有値	11.4	5.7	3.9	2.6	2.3	2.2	2.0
負荷量（%）	14.9	10.6	7.7	6.7	6.4	4.0	4.0
累積負荷量（%）	14.86	25.47	33.16	39.82	46.25	50.28	54.32

NII-Electronic Library Service

Kochi University

図１．看護学生が抱く認知症高齢者の各因子における平均値のプロフィール



いることを報告している[7]．本研究でも同様に，調査時に学生は老年看護学実習の履修前であったことから，認知症高齢者との関わりが乏しく，マスメディアや近親の認知症高齢者の影響によって否定的なイメージを抱いたことが考えられた．このことから，今後，学生の認知症高齢者に抱くイメージの形成に実習が深く関わっていくことが予測され，認知症高齢者と実際的に関わる機会となる実習における体験の重要性が指摘された．

認知症高齢者の方が一般高齢者に比較して平均値が高かった４項目のうち，認知症高齢者に対して肯定的なイメージを抱いていたのは，「静的/動的」および「目立たない/目立つ」の２項目であった．学生は，一般高齢者に「静的」「目立たない」という物静かなイメージを抱いていたのに対して，認知症高齢者では「動的」「目立つ」といった活発なイメージを抱いていた．宮本ら[9]および鳴海ら[6]は，徘徊や大声を出すことが，活発な認知症高齢者のイメージと関連することを指摘している．このことから，本研究でも活発な認知症高齢者のイメージは，それらの認知症の周辺症状と関連していることが考えられた．

学生がイメージした一般高齢者の年齢は，本研究では75歳以上が67％であったのに対し，実習前の看護学生を対象にした多田の報告[5]では43％であり，本研究の対象者は高齢者の年齢を高くイメージしている傾向がみられた．このことから，学生によってイメージされた認知症高齢者の年齢は，先行研究で明らかにされていないが，一般高齢者と同様に本研究の対象者では，高くイメージしていることが考えられた．

因子分析から抽出された『活動性』のイメージ得点は低く，認知症高齢者を活動性が低い存在として捉えていた．小泉ら[3]は，看護学生の一般高齢者に対するイメージの因子分析から本研究と同様に活動性の因子を抽出し，活動性の平均値が低かったことについて，看護学生は，健康の枠組から身体的・精神的能力に注目する教育を受けていることで，高齢者を体力の衰えた弱い存在として捉えていることを指摘しているように，認知症高齢者においても同様のことが考えられた．次に，小泉らも『親近性』を抽出し，対人認知において性格認知と相互関係認知に関連し，低学年の学生において，患者と接する場合に学生自身が対象者に受け入れられるか否かといった『親近性』に反応することを指摘している[3]．本研究の学生も，老年看護学実習の初日であったことから，認知症高齢者に自分が受け入れられるか否かといった同様の相互関係認知が影響していることが考えられた．本研究で，看護学生の『親近性』関するイメージは中立的であったことから，少なくとも，認

NII-Electronic Library Service

Kochi University

知症高齢者に対して，親しみを持ってないとは言えないであろう．『有能さ』は，最もイメージ得点が低かったことから，看護学生は，認知症高齢者の『有能さ』に対して最も否定的で，認知症高齢者は能力面で劣っていると捉えていることが明らかとなった．

本研究の限界は，認知症高齢者のイメージを形成している要因についての情報がほとんど得られていない点である．今後，本研究対象者を学年の進行に合わせて追跡してイメージの変化とその要因を明らかにし，学生が認知症高齢者に対して肯定的なイメージを抱けるように，看護学教育の内容と方法を検討していきたい．

まとめ

1）老年看護学実習履修前の看護学生は，一般高齢者よりも認知症高齢者に否定的なイメージを抱いていた．これは，認知症高齢者との実際的な関わりの経験の乏しさによることが考えられた．

2）認知症高齢者のイメージを因子分析した結果，『活動性』『威厳性』『親近性』『幸福さ』『有能さ』『繊細さ』および『精神性』の7項目が抽出された．

3）学生がイメージした認知症高齢者の年齢は，一般高齢者よりも高くイメージされていた．

4）今後，学生が認知症高齢者に対して肯定的なイメージを抱けるように，教育内容を検討していくことが課題として残された．

引用・参考文献

1）今井雪香，片岡万里，柳田泰義．老人イメージに関する調査(2)－看護大学生と一般大学生との比較－，神戸大学発達科学部研究紀要，6 (1)，225-233，(1998)

2）木村誠子，片岡万里．老人に対する2年後の印象の変化―老年看護学授業開始前と卒業前における調査を比較して―，第34回日本看護学会看護教育，88-90 (2003)

3）小泉美佐子，上本純子．看護学生の老人イメージ―Semantic Differential―，筑波医短大研報，11，33-39 (1990)

4）西川千歳，中野悦子，丁野みどり他．看護学生の老人イメージに関する研究 (3)，神戸市立看護短期大学紀要，13，97-106 (1994)

5）多田敏子．老年看護学における臨地実習による看護学生の高齢者に対する印象の変化，老年看護学，1 (1)，63-70 (1996)

6）鳴海喜代子，田中敦子．看護学生の痴呆性高齢者 image と痴呆性高齢者観について―学習初期段階にある2年過程と3年過程の学生の調査から―，埼玉県立短期大学部紀要，167-176 (2004)

7）吉本知恵，横川絹江．看護学生の痴呆性高齢者に対するイメージと看護観および影響因子―3年制看護短大生の学習進度による比較―，14 (1)，35-45 (2004)

8）保坂久美子，袖井孝子．大学生の老人イメージ―SD 法による分析―，社会老年学，27，22-33 (1988)

9）宮本美奈子・安藤光子・小泉美佐子：看護学生が痴呆高齢者への対応で困難を感じる状況の分析．群馬大学医学部保健学科紀要，22：35-54，(2001)

平成18年（2006）11月30日受理
平成19年（2007）1月11日採択

NII-Electronic Library Service